

各機関の取組事例紹介（西牟婁地域）

○氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

	取組事例	取組機関	資料掲載箇所
1	河川改修	県河川課	日置川 資料4-3 p1 芳養川 資料5-3 p1 左会津川 資料6-3 p1 富田川 資料7-3 p1
2	田辺漁港海岸（左会津川右岸 護岸改修）	県港湾漁港整備課	左会津川 資料6-3 p2
3	砂利採取	県河川課・白浜町	日置川 資料4-3 p2
4	老朽化したポンプ場の改築及び修繕を実施	田辺市	左会津川 資料6-3 p3
5	砂防堰堤、床固工群等の整備	紀伊山系砂防事務所	日置川 資料4-3 p3
6	砂防事業（地すべり対策）	県砂防課	芳養川 資料5-3 p2
7	森林整備事業（間伐等の森林整備を推進）	県森林整備課	資料8
8	治山事業（山地災害の復旧・予防、森林整備・保全）	県森林整備課	左会津川 資料6-3 p5
9	森林整備・治山事業（雨水貯留機能の向上）	近畿中国森林管理局	日置川 資料4-3 p5他
10	間伐等の森林整備	森林整備センター	富田川 資料7-3 p5他
11	森林経営管理制度	田辺市	芳養川 資料5-3 p4他
12	富田川治水組合	上富田町・田辺市・白浜町	富田川 資料7-3 p7

○被害対象を減少させるための対策

	取組事例	取組機関	資料掲載箇所
1	まちづくり活用のための多段階の浸水想定区域図の作成	県河川課	左会津川 資料6-3 p10

○被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

	取組事例	取組機関	資料掲載箇所
1	防災教育等の実施	紀伊山系砂防事務所	日置川 資料4-3 p12
2	中小河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表	県河川課	減災 資料3-3 p1
3	県ホームページで、河川の水位、カメラ映像を提供	県河川課	減災 資料3-3 p2
4	「和歌山県防災ナビ」アプリを配信	県防災企画課	左会津川 資料6-3 p15他
5	防災行政無線戸別受信機設置及びメール、SNSによる情報提供体制の強化 ほか	田辺市	減災 資料3-3 p3
6	小中学校と連携した防災教育の実施 ほか	白浜町	減災 資料3-3 p4
7	防災行政無線の機能強化および戸別受信機の希望世帯への無償貸出	上富田町	減災 資料3-3 p6
8	避難所の整備	すさみ町	減災 資料3-3 p7

○流域治水プロジェクトの「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす」対策として間伐等の森林整備を推進



○森林は様々な公益的機能を有する
 ➡当プロジェクトは**水源涵養機能**、**土砂災害防止機能**の発揮を特に重視

① 自然を守る

森林は、動植物が生きていく上で必要とする場所を提供しています。



② 水をたくわえる

木や草がたくさん生い茂る森林地帯は、多量の雨水でもスポンジのようにため込む力があります。



③ 土砂災害を防ぐ

山の急な傾斜の斜面に木の根が深く土の中ではりめぐらされ、土砂崩れなど起きなくなります。



④ 地球温暖化を防止する

森林を育て守ることは、二酸化炭素を減らし、温暖化を防止する役割をはたします。

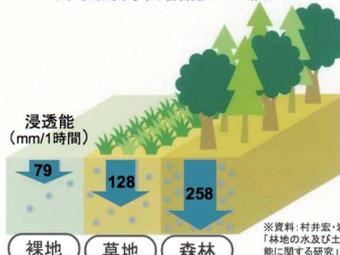


⑤ 木で作られた物を使おう

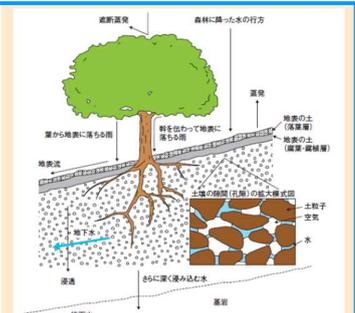
木を育てると同時に、育った木で机や椅子、家具や住み家などに有効に使うことができます。



【森林の水源涵養機能】
 (水資源貯留機能の比較)



※資料: 村井宏・岩崎勇作「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」(1975)



資料: 一般社団法人全国林業改良普及協会「森林のセミナー No.1 水を育む森、森を育む水」を一部改題。

○森林は様々な公益的機能を有する

➡当プロジェクトは**水源涵養機能**、**土砂災害防止機能**の発揮を特に重視

① 自然を守る

森林は、動植物が生きていく上で必要とする場所を提供しています。



② 水をたくわえる

木や草がたくさん生い茂る森林地帯は、多量の雨水でもスポンジのようにため込む力があります。



③ 土砂災害を防ぐ

山の急な傾斜の斜面に木の根が深く土の中ではりめぐらされ、土砂崩れなど起きなくなります。



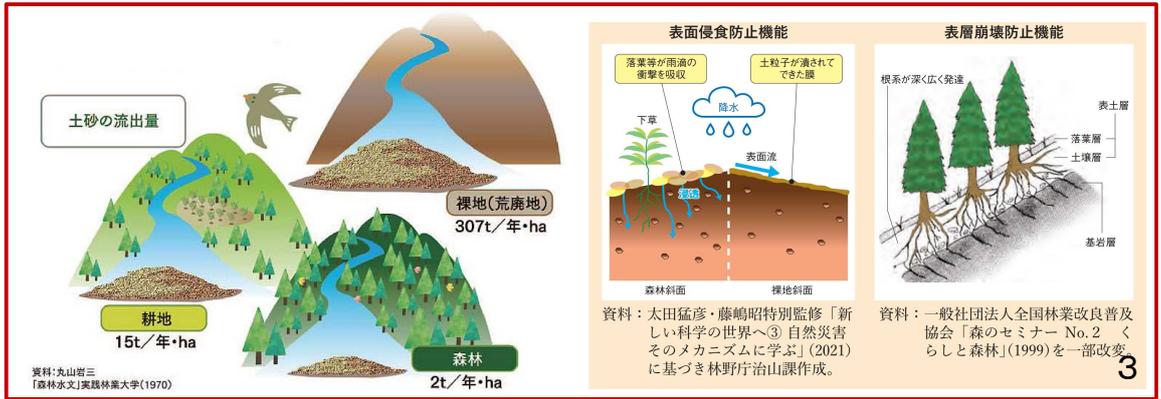
④ 地球温暖化を防止する

森林を育て守ることは、二酸化炭素を減らし、温暖化を防止する役割をはたします。



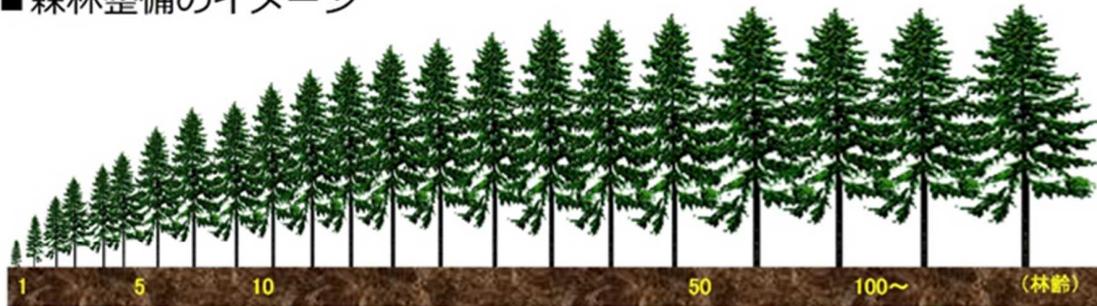
⑤ 木で作られた物を使おう

木を育てると同時に、育った木で机や椅子、家具や住む家などに有効に使うことができます。



○森林の育成は、植栽から収穫までに長い年月(概ね50年以上)が必要で森林整備を繰り返すことが必要

■ 森林整備のイメージ



森林の適切な更新

伐採後に再び苗木を植えることで、森林が適切に更新される。

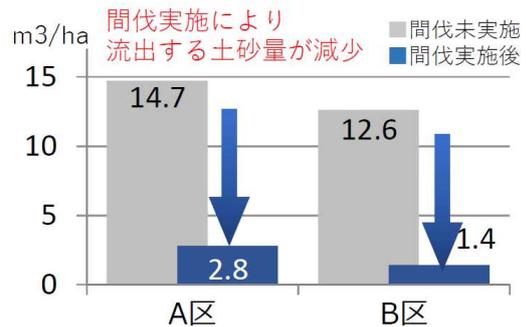
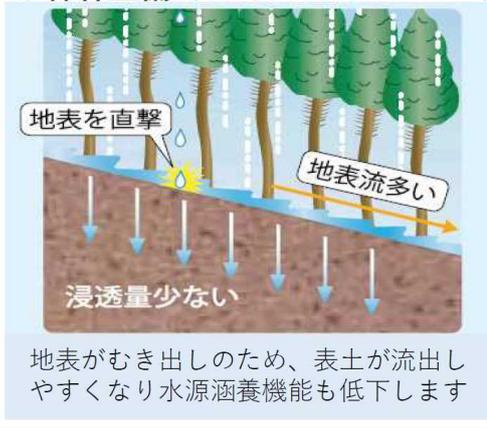
○流域治水プロジェクトにおける森林整備の取組
 →間伐等の森林整備による山地災害防止機能、水源涵養機能の確保

施策の内容

概要

- ・森林には、雨水による土壌の侵食や流出等を防ぐ山地災害防止機能・土壌保全機能や洪水緩和等を図る水源涵養機能等があります。
- ・これらの機能の維持・発揮を図るため、間伐等の実施や荒廃山地の復旧・予防対策等による森林の維持造成を通じ、山地災害発生の防止や森林の浸透・保水機能の維持・向上対策を推進しています。

○森林整備(↓間伐未実施のイメージ)



【出典】 恩田裕一編(2008) 人工林荒廃と水・土砂流出の実態
 ・土砂量は2006年6月～11月の6ヶ月間

○森林整備の不足は森林の荒廃を招く
 →山地災害、渇水リスクの増大



○間伐等の森林整備により、森林を健全な状態へ育成
➡森林の山地災害防止機能、水源涵養機能等の公益的機能の確保

森林整備(前)



- 木が込み合い、林内に光が届かない
- 表土が剥き出しになり、土砂が流出
- 根系の発達が遅れ、倒木のリスク

森林整備(間伐)
の実施

森林整備(後)



- 林内に光が届く
- 下層植生が発達し、土砂流出防止
- 根系が発達し、倒木の未然防止